



森林環境教育ネットワークメールマガジン 第201号 (平成 31 年 1 月 15 日)



(目 次)

- 1 <林野庁ホームページから> 2019年の林野庁カレンダーを作成しました
 - 2 <コラム> 森林環境教育の現場から(142)
 - 3 <国土緑化推進機構からのお知らせ>
平成 31 年度「緑の募金」及び「緑と水の森林ファンド」で助成支援する緑のボランティア活動を募集及び緑のボランティア活動 助成セミナー2019
 - 3 <森林・林業白書から>西栗倉村百年の森林構想
 - 4 <樹をとりまくはなし>(22) 生態都市のための市民ワークショップ
 - 5 <イベント情報>
 - ◆高尾ふれあい推進センター・森林ふれあい推進事業
 - 仲良しになろう！高尾の森と 春の親子自然観察会
～見つけよう 感じよう 高尾山の春～
 - 春の健康ハイキング
～北高尾の森で春を探そう～
- ☆ 事務局から



森林環境教育ネットワーク <http://www.shinrinreku.jp/feenet/index.html>
《バックナンバー<http://www.shinrinreku.jp/feenet/php4/mlbk/index.php>》
《イベント情報の登録・閲覧 <http://www.shinrinreku.jp/feenet/einfo/>》
一般社団法人全国森林レクリエーション協会 <http://www.shinrinreku.jp>



1 <林野庁ホームページから> 2019年の林野庁カレンダーを作成しました

「わたしの美しい森フォトコンテスト」入賞作品を活用し、2019 年の林野庁カレンダーを作成しました。

カレンダーのダウンロードは、月別の PDF ファイルをご自分の PC に保存してお使いください。

ダウンロードは次の URL の WEB から行えます。
URL : http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/

2 <コラム> 森林環境教育の現場から(142)

北海道名寄市で「森のようちえん」として、年長園児たちと 11 月の森を歩きました。通常ならば雪深くスノーシューを履いて歩く予定でしたが、今年は暖冬で雪はなく長靴で森の中を歩くことができました。子どもたちとオニグルミの木を見て「たくさんなっていたクルミが全部無くなったね！」「地面に落ちていたクルミはどうしたのかな？」など話していると、「あっ！リスだ！」一人の園児がエゾリスを見つけました。地面を走り、木から木へと移動し、高い木の上まで登って行くエゾリスに子どもたちは興奮！「ボク、初めて見た♪」そうなのです、自然度の高い名寄市でも街で生活する子どもたちはエゾリスを見たことがありません。(キタキツネはネコよりも眼にしますが・・・)その後は、すっかり葉を落とした木々の森を歩きました。夏はやブだった斜面をこわごわ下り、夏にヤゴを採った小川に着きました。「わ～夏と景色が違う～！」季節により変化する森の景色に、子どもたちは大興奮！冬の雪深い森、春の野草が咲き乱れる森の姿を想像して、この日の活動は終了しました。

(森林インストラクター 柳原 高文)

3 <国土緑化推進機構からのお知らせ>

平成 31 年度「緑の募金」及び「緑と水の森林ファンド」で助成支援する
緑のボランティア活動を募集及び緑のボランティア活動 助成セミナー2019

国土緑化推進機構では、平成 31 年度「緑の募金」及び「緑と水の森林ファンド」で助成支援する緑のボランティア活動を募集します。(2月 15 日～3月末日締切)「緑の募金」と「緑と水の森林ファンド」では、昨年より新たな助成メニューを定め、子どもたちの森づくりや次世代育成を支援します。

この助成プログラムの紹介と個別相談会、「新たな参加者を呼び込むための工夫～三方よしの活動運営」をテーマにした助成セミナーを開催します。

子育て支援や茶の湯炭文化の継承、グリーンウッドワークの普及など、新たな視点で「緑の募金」を活用し、多様な世代を里山や森林づくりへ巻き込んでいる事例等から、今後の森林づくりの可能性と運営のヒントやコツを共有します。

◆緑のボランティア活動 助成セミナー2019

【日時】 2019 年2月 16 日(土) 13:30～17:30

【会場】 弘済会館 4階「梅」(東京都千代田区麴町5-1)

【内容】 活動事例紹介、トークセッション、助成プログラム紹介、個別相談会
(個別相談会の待ち時間に登壇者とのグループトークを予定)

【主催】 公益社団法人 国土緑化推進機構

【対象】 これから里山や森林づくりに関わる活動をはじめてみたい団体
既に活動を実施していてさらに拡げ発展させたい団体 など

【詳細・申し込み】 下記 URL からお願いします。(FAX でも可)

<http://www.green.or.jp/bokin/190216bokin>

○当セミナーにご登壇いただく団体の活動紹介ショートフィルムと「緑の募金助成ガイド

2019」を近日公開予定

<http://www.green.or.jp/bokin/>

○「緑の募金」公募案内(2/15以降公開)

<http://www.green.or.jp/bokin/>

○「緑と水の森林ファンド」公募案内(2/15以降公開)

<http://www.green.or.jp/>

(転送歓迎)

3 <森林・林業白書から> 西粟倉村百年の森林構想

岡山県北東端部の中山間地に位置する西粟倉村は、面積約 5,800ha のうち 93%を森林が占める典型的な山村である。同村は人口 1,478 人、世帯数 592、高齢化率 35% (平成 29 (2017)年3月現在)であり、平成 17 (2005)年時点の人口 1,684 人からは徐々に人口が減少している。

同村では、森林の約 82%を占める人工林の多くが 50 年生まで育っていることを受け、林業をめぐる厳しい状況の中で、これらの人工林の管理を諦めるのではなく、村ぐるみであと 50 年頑張る美しい森林に囲まれた上質な田舎を実現していこうとの「百年の森林(もり)構想」を村の方針として打ち立てた。

この「百年の森林構想」に基づき西粟倉村や株式会社西粟倉森の学校等の主体が連携して「百年の森林事業」を実施しており、川上側では適切な森林管理や森林整備により「生物が豊かで、美しく安全な森林づくり」、川下側では間伐材を使った商品の開発・販売を通じ「森林をきっかけに西粟倉を多面的に活性化」することを目的としている。

具体的な取組としては、個人所有の山林を村が預かって管理・整備を行う「長期施業管理に関する契約」を進めることとしており、契約目標の私有林約 3,000ha に対して、平成 29(2017)年 12 月現在、約 1,475ha の契約を締結している。この契約は、西粟倉村が契約期間を 10 年間とした森林管理の委託を受け、その間森林整備にかかる費用については全て村が負担し、森林所有者には費用負担がかからないこととなっている(木材販売の収益は森林所有者と村が折半)。このように、地元の地方公共団体が主体的に森林管理に関わることが、安心感につながり、契約を伸ばしている。

(平成29年度森林・林業白書 事例から)

4 <樹をとりまくはなし>(22) 生態都市のための市民ワークショップ

昨年 9 月に韓国のアンサイ市環境財団に呼ばれ木について講演した。「生態都市のための市民ワークショップ」というテーマで参加者は 60 名ぐらいだ。日本からオーガニックガーデンの曳地ハル、トシ夫妻、野糞の伊沢正名さん、私という講師陣。自分と言うのもなんだが、濃いメンバーだ。もともと曳地夫妻が日本でやっている「オーガニックガーデンマイスター講座」をそのまま韓国へもっていきたいと数年前に韓国からオーガ

ニックガーデン講座に参加していた。私の持ち時間は 2 時間だが翻訳を聞いていると日本語より長い。翻訳時間を考えるとパウポは半分ぐらいにしなくてはいけない。そして翻訳しやすいように短いセンテンスを用意した。翻訳する人はもともと IT 関係の翻訳をやっている方だったが、今回の講座のためはかなり勉強したようで、「自由にしゃべって大丈夫ですよ」と言われた。優秀だ。結果、時間はあまり、おまけで私の作った泥団子ブローチを紹介したら、その食いつきはすごく、講演終了後どっと押し寄せられた。うれしいけど、木じゃなくて泥団子なのね。韓国の方々は差し入れをくれたり、「おもしろかった」と言ってくれたり暖かかった。

(森林インストラクター 岩谷 美苗)

5 <図書紹介>森の幼稚園 ドイツに学ぶ森と自然が育む教育と実務の指導書
イングリッド・ミクリッツ (著)、公益社団法人 国土緑化推進機構 (監修、翻訳)
(風鳴舎)

1950 年代に北欧で誕生し、欧州を中心に普及・発展した「森の幼稚園」は、今や世界的な拡がりを見せています。「森の幼稚園」は、森や自然を活用して保育や幼児教育をおこなうもので、日本でもその動向が注目を集め、取り組みや実践も広がっています。本書は、「森の幼稚園」先進国であるドイツの第一人者によるロングセラーで、その教育の理念や基本から実務の詳細、設立や運営のノウハウまでを、著者自身の経験や実例をもとに実践的に解説したバイブルと呼べる指南書です。保育者、保護者や幼児教育者はもちろん、園の運営者や自治体の担当者まで、幅広く読んでいただける一冊です。(A5 版 400 頁 2,500 円+税)

主要目次

- 第 1 章 森の幼稚園の基礎
- 第 2 章 保育者が知らなくてはならないこと
- 第 3 章 森の幼稚園での教育実践
- 第 4 章 保護者との共同作業
- 第 5 章 森の幼稚園の組織
- 第 6 章 資金源を開拓する—社会的スポンサーシップ
- 第 7 章 法的基盤と公的基準
- 第 8 章 どのように森の幼稚園を設立するのか
- 第 9 章 研究結果—森の幼稚園についての研究
- 第 10 章 付録

5 <イベント情報>

- ◆高尾ふれあい推進センター・森林ふれあい推進事業
 - 仲良しになろう！高尾の森と 春の親子自然観察会
～見つけよう 感じよう 高尾山の春～
 - 春の健康ハイキング
～北高尾の森で春を探そう～
-

◆高尾ふれあい推進センター・森林ふれあい推進事業

○仲良しになろう！高尾の森と 春の親子自然観察会

～見つけよう 感じよう 高尾山の春～

【開催日】 3月10日(日)

【集合】 JR 高尾駅北口 8時30分

【解散】 林野庁慰霊碑前広場(ケーブル高尾山駅付近) 15時頃

【コース】 日影沢キャンプ場～いろはの森～4号路～高尾山頂(昼食)～1号路～いろはの道分岐～4号路(吊橋経由)～林野庁慰霊碑前広場

【募集人員】 小学生以上のお子様とご家族 50名(応募者多数の場合は抽選)

【参加費】 子ども 500円 大人 1,700円(この自然観察会参加に要する交通費は参加者負担でお願いします)

【持ち物】 リュックサック、昼食、飲み物(水を多めに)、敷物、雨具、防寒具、帽子、保険証(写し)、活動し易い服装、歩き慣れた運動靴、着替え、タオル、筆記具

【雨天時】 雨天中止(中止の場合は、前日の18時ころまでに連絡します)

申込はメールか往復はがきで「高尾森林ふれあい推進センター」まで

Email の場合 fitoyako30@gmail.com

往復はがきの場合 〒193-0844 八王子市高尾町 2438-1

高尾森林ふれあい推進センター「高尾山 春の親子自然観察会」係

【応募締切】 2月23日(土)必着

【記入内容】 ①「高尾山 春の親子自然観察会」参加希望

②郵便番号と住所 ③Email アドレス

④参加者の氏名とふりがな、年齢、学年、性別

⑤電話番号(中止時などに確実に伝わる連絡先)

⑥このイベントを何でしましたか

【お問い合わせ】 森林インストラクター東京会

Email: fitoyako30@gmail.com

電話 090-5329-8106(飯塚)

○春の健康ハイキング

～北高尾の森で春を探そう～

【開催日】 3月13日(水)

【集合】 JR 高尾駅北口 8時00分(8時34分大久保行きバス乗車)

【解散】 木下沢梅林前 15時頃

【参加費】 1,700円(別途バス代530円)

【持ち物】 昼食、飲み物、帽子、防寒着、雨具、履き慣れたハイキングシューズ、あればルーペ等

【雨天時】 雨天中止(中止の場合は、前日の19時までに連絡します)

【申込方法】

A: 往復はがき ①イベント名 ②参加者全員の氏名(ふりがな)、年齢、性別

③代表者の住所、電話番号(自宅、携帯)、あればメールアドレス

④このイベントを何でお知りになりましたか

⑤返信面の宛先

をご記入の上、締め切り日までに到着するように下記宛にお申込みく

ださい。

